

## ◎活動状況

- ・「食彩ふくしま地産地消推進店」認定
- ・田んぼの学校 稲刈り
- ・ブロッコリーが収穫期を迎えました

## ◎トピックス

- ・いわき市児童生徒木工工作コンクール開催

# 活動状況

## ○「食彩ふくしま地産地消推進店」が認定されました

福島県が進める地産地消の趣旨に賛同し、地元産をはじめ、県内産の農林水産物を積極的に利用する飲食店を募集し、福島県全体で92店舗、そのうちいわき地区では16店舗が「食彩ふくしま地産地消推進店」として認定されました。

この取り組みは、消費者の方々に本県で生産される豊富な農林水産物を知っていただくため、認定した「推進店」において実際に食する機会をつくることにより、県産農林水産物の消費拡大につなげることを目的としています。

「推進店」では、積極的に県産農林水産物を利用したこだわりの地産地消メニューが提供されています。特に10月と11月は地産地消月間となっておりますので、お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りいただき、その味をご賞味ください。

詳しくは、県ホームページ「地産地消推進店」のページをご覧ください。

<http://www.pref.fukushima.jp/an-ryu/20suishinten/20suishinten-2.htm>

## ○田んぼの学校 稲刈り

現在、いわき市立夏井小学校では、5年生の児童が1年間を通して稲作を体験する「田んぼの学校」活動を行っています。9月24日は、「稲刈り」を実施しました。

稲の刈取りは、小学校全体の行事として全学年児童によって行われました。作業は、児童が刈り取った稲を地元応援団及び小学校PTAが藁で束ね、フェンスに掛けて干していくという流れです。また、5年生は、なぜ収穫した稲を干す必要があるのかということを知り、その作業も実際に体験しました。

児童は稲の刈取りなどの作業を終始楽しみながら、自分たちで植え育てた作物を収穫する喜びを実感していたようです。

次回の活動は10月28日、今回収穫し乾燥させた稲穂から籾を取る「脱穀」を行う予定です。

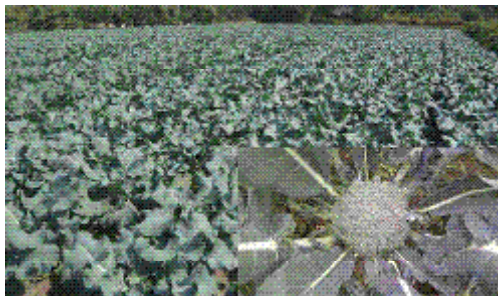


## ○ブロッコリーが収穫期を迎えました

今年は、定植期の8月中下旬に長雨があり、湿害による被害及び生育遅延が心配されましたが、転作ほ場で導入した高畦の効果で湿害等は最小限に抑えられ、10月上旬から品質の良いブロッコリーが収穫・出荷されています。

いわき地域のブロッコリーの収穫・出荷は、中山間地から平坦地へのリレーにより、年明けの3月まで続きます。特に1～3月の安定出荷は、県内でも、いわき地域の大きなメリットとなっています。

集落営農の一環として新たに栽培を開始した、大野第一(駒込)地区や合戸地区も生育は順調で、11月から収穫が開始される予定です。



生育良好なほ場と収穫期を迎えたブロッコリー(右下)

## トピックス

### 〇いわき市児童生徒木工工作コンクールが開催されました

木の良さを再発見するとともに、児童生徒の造形能力の発達を目的とした「第14回いわき市児童生徒木工工作コンクール」の展示会が、福島県木材青壮年協会いわき支部の主催により、9月13日、14日の2日間、いわき市平のヨークベニマル谷川瀬店で開かれました。

コンクールには、いわき市内の小学校36校より1086点の作品が応募され、その中から368点の作品が展示されました。展示会に先立ち行われたコンクール審査会では、木の持つ質感を活かして、創意工夫を感じさせる、いわき市立郷ヶ丘小学校2年生の折内健太郎さんの作品と、いわき市立平第五小学校5年生の竹森大和さんの作品が、いわき農林事務所長賞に輝くなど、多くの作品が特選などの賞に選ばれました。展示会には、親子連れや買い物客など約1,500人が来場し、自然木の風合いを取り入れた作品や大人顔負けの作品に見入っていました。

なお、優秀作品は、福島県児童生徒木工工作コンクールに推薦されるほか、10月に行われる福島県林業祭、11月に行われるいわき産業祭においても展示されます。



折内健太郎さんの作品「福島空港」



竹森大和さんの作品「生きた化石シーラカンス」

◀もどる

すすむ▶